



## 平成17年度 定期総会を開催

去る4月30日 荏原第二学童保育クラブにおいて、平成17年度鳳和會「定期総会」が開催され、各報告の他意見交換等を行いました。

主な議事及び内容については下記のとおりです。詳しくは別紙をご覧ください。

### 記

#### 1. 平成16年度 活動報告

祭礼用フラッグを作製し、町内の電柱に取り付けました。台風で飛ばされるなど手間がかかりましたが祭りの雰囲気盛り上げることができました。今年は飛ばされないよう工夫をしたいと思います。

#### 2. 平成16年度 収支決算報告 及び 監査報告

昨年度は特に備品の購入等による大きな支出がなかったため、約75万円(前期繰越金を含む)の繰越金がありました。今年は神輿のより充実のため担ぎ棒や飾り紐の新調について検討したいと考えています。

#### 3. 平成17年度 活動予定

6/26(日)に会員親睦を目的としたレクリエーションを企画しました。気軽に参加して下さい。今年の祭礼は、9月3日・4日の予定です。

#### 4. 役員改選の件

会則第四章第十四条の規定(役員の任期は3年とする)により、現役員全員留任となりました。役員は以下の通りです。何か問い合わせなどがありましたら気軽に声をかけて下さい。

役職	氏名	役職	氏名
名誉会長	三瓶 恭生	幹事(1部)	遠藤 昭次
会長	佐藤 眞一	"	西山 幸男
副会長	森口 清	幹事(2部)	中島 政雄
"	高橋 則一	幹事(3部)	南波 行則
"	古宮 明	"	松谷 東一
"	三瓶 恭行	"	大木 正一
副会長・会計	市川 努	幹事(4部)	佐藤 米蔵
副会長・事務局長	高橋 幸雄	幹事(5部)	森口 益君
監事	大越 守俊	"	佐藤 利明
相談役	堀口 紀之	幹事(6部)	大高 一浩
"	時田 敬三	幹事(7部)	三瓶 智規
顧問	長村 昭三	幹事(8部)	佐藤 厚
"	古宮 衛	幹事(9部)	平野 忠宏
		"	浦野 環樹

則一の  
お楽しみレポート  
- その

高橋則一です。今回の則一レポートは、**今年の11月に行った恒例の秋の一泊旅行についてお伝えします。**

平成16年11月6日(土)・7日(日)一泊二日で山梨県の石和温泉に行ってまいりました。今回の参加者は14名、内一人は10月いっぱい山梨に引っ越された床屋の木村さんです。現地にて合流して下さることになりました。地元出発の13名は、中原街道の三井住友銀行の前に集合し、8時30分にいざ出発です。実はこの旅行、松谷さんと共に私も初めての幹事ということもあり緊張と不安と忙しさのなかの出発でした。バスは首都高速から中央高速を通り最初の目的地、サントリー「登美の丘ワイナリー」に到着、ここには広大なぶどう畑があり世界的にも評価されている「登美の丘」というワインの製造をしており、ワインの製造工程や貯蔵庫などを見学しました。なかでも貯蔵庫は山をくりぬいて造っており冷暗で湿度も一定に保たれていて、50万本ものワインが熟成されているということでした。ちなみにこの日はほかほか陽気だったためTシャツ姿で見学に出た私は貯蔵庫の中で震えるはめになりました(ぶるぶる)。その後、試飲用ワインの飲みすぎで足元にきた一行はワイナリーの中にあるバーベキューガーデンで昼食。ぶどう畑と甲府盆地を眺めながらのバーベキューは最高でした。次に向ったのは武田神社です。バスを降りると神社の周りにお堀があるのに気づき、近くにいたバスガイドさん(他のバス)にたずねてみると、「武田神社は城を持たなかった武田信玄の館の跡で、敵からの防御のためにお堀があるのです」と親切に教えてくれました。神社の境内はちょうど七五三の時期で家族ずれの姿が目立ちました。



参拝を済ませ、いよいよ今夜宿泊する石和温泉ホテル古柏園へと向かいました。宿につくと木村さんがすでに到着しており再会をよろこびあいました。その後は温泉にゆっくりとつかり、宴会にカラオケ、余興と、大いに盛り上がりました。(もちろん閉めはラーメン)

翌朝、朝食の後、木村さんとはホテルでお別れです。「お祭りの時にまた会いましょう」と、再会を誓って我々は最初の目的地、**愛宕山**に向かいました。愛宕山には県立の天文に関するテーマパークがあり、ここの展望台から甲府盆地が一望できると聞き訪ねたのですが、この日晴れていたのにもかかわらず甲府盆地にはガスがかかり一望とはゆかず、**大型望遠鏡**をバックに記念撮影をし、この旅行のメインというべき**昇仙峡**へと移動しました。



昇仙峡は秋の行楽シーズンということもあり、かなり混雑していましたが、仙娥滝や覚円峰などを望みながら遊歩道をくだってまいりました。途中、**名物のトテ馬車**に乗り下る班と徒歩で下る班に分かれましたが、私はトテ馬車に乗ってみることにしました。

馬車の一番前に座ったのですが、そこは馬のお尻の真後ろだったことに気がついた時にはもう遅くしばらく強烈な臭いと戦っていました。この馬は北海道のばんばに使われる馬で、競馬に使われるサラブレッドの倍以上の体重があるそうで、その歩きぶりは迫力満点でした。馬車の運転手(?)さんに聞くと「今年の紅葉は暖かったせいでいまひとつ」だとのことでしたが、鮮やかなもみじの色は目に眩しいほどでした。昇仙峡を下り終え、この近くの御岳そば「せん」というお店で昼食です。昼食の後には富士五湖を經由して帰る予定でしたが、この時すでに1時間以上予定をオーバーしていたため、このまま帰路につくこととなりました。今年の旅行はどこへ行こうかなと、もう考えております。普段、忙しい皆さんのために、なるべくゆっくりしていただけるような企画にしたいと思いますので、ぜひ多くの会員の皆さんの参加をお願いします。



今年、忙しい皆さんのために、なるべくゆっくりしていただけるような企画にしたいと思いますので、ぜひ多くの会員の皆さんの参加をお願いします。

高橋則一

豆知識

## 「直会（なおらい）」について

「直会」とは、具体的には、お祭りの後に参列者が集まって飲食を共にして歓談したり、ご祈禱の後にご社前で盃に注がれたお酒をいただいたりすることを言います。（鳳和會では神輿を担いだ後の慰労会のことをいう）つまり、神様に供えた御神酒や神饌を祭典終了後に下げて、これを祭典に関わった者たちで共にいただくことなのです。

神様に供えたものをいただくことは、つまり神様の御霊のこもったものをいただくことになるのです。祭典の奉仕をする者は、その準備段階として、まず潔斎をして心身の清浄につとめます。したがって、準備段階から祭典終了時までの間は、平常とは違った特別の状態になります。そこで、その特別の状態を解きほぐし、平常の状態に戻すための手だてとして、祭典終了後の直会が必要となるわけです。直会の語源は「直り合い」が詰まった言葉と言われ、祭りに参加した緊張感を解いて平常に「直る」ための大切な儀式とされています。祭礼時にはお持て成しのご馳走や酒を皆で一緒にいただく一種の宴会と理解されたりもしていますが、このように「直会」は本来お祭りを構成する一つの重要な「儀式」なのですから、「直会」に参加される際には、決して羽目を外さず神様への感謝の気持ちを持ちながら有難く参加したいものです。

なお、町会では祭礼の数日後に「鉢洗い」と称した慰労会を行います。「直会」は上記による意味をもち、神輿を担いだあとの慰労会のことですが、「鉢洗い」は、町会の寄付の掲示板や桶、鉢など祭礼の際に使用した道具などの全てが片付いたあとの慰労会のことのようで、地方によっては、「板洗い」「桶洗い」などとも言うようです。（鉢洗いについては大越さんに聞きました）

### 会員及び賛助会員の皆様へ

鳳和會では、来る6月25日（日）に会員親睦を目的としたレクレーションを企画しています。

詳しくは別紙の案内をご覧ください、鳳和會の維持発展のため、ご本人はもちろんのこと、息子さんや娘さんなど、若い人の参加にご協力下さい。

今年も持ち半纏の注文をされる方には5,000円の補助を行います。毎年貸し半纏が不足しますので、神輿を担ぐ人は、可能なかぎり持ち半纏の作製をお願いします。希望者は事務局までお知らせ下さい。価格は、補助分を差し引いて17,000円（紬）、13,000円（綿）の2種類です。（税別）

### パソコンをお持ちの方はメールアドレスをお知らせ下さい

「鳳和會便り」及び会からのお知らせ等は、現在会員宅に直接配布をしていますが、パソコンをお持ちの方には今後メールでの配信をしていく予定です。また、ホームページも作成中ですので、現在お持ちのメールアドレスがある方は事務局までお知らせ下さい。また感想、ご意見等がありましたら気軽にお知らせ下さい。よろしくお願い致します。（事務局）

事務局

電話 070-5020-4932  
(13:00~21:00)

FAX 03 3783 8027